

日本各所関係古地図

分類番号				著者・出版社(者)	地図名	発行年	寸法(cm)	概要
1	51	25	1	蜂屋十馬	(外)松島塩竈明細全図	明治34年(1901)	38×59	上段に松島が鳥瞰図的に描かれている。下段には牛石神社壺ノ碑文などの名所の説明がある。また、瑞巖寺(ずいがんじ)の境内図が描かれている。白黒の地図である。
	4	13	7		(内)名勝総入改正仙台市内全図	明治29年(1896)	38×58	中心に仙台市内の地図が描かれている。その周囲に、仙台警察署、憲兵本部などの関係機関や、林子平之碑、青葉神社などの名所の建物が絵で描かれている。白黒の地図である。
	4	13	18		(内)名勝総入改正仙台市内全図	明治24年(1891)	38×58	基本的に4-13-7と同じ図である。大泉旅館が木之下薬師、大泉支店が東照宮に替わり、仙台ホテルが描かれていない。白黒の地図である。
	4	13	22		(内)名勝総入改正仙台市内全図	明治41年(1908)	39×60	基本的に4-13-7と同じ白黒の図である。地図の周囲の名所・関係機関の建物の紹介が多くなっている。また、それまで描かれなかった住宅・建築物が描かれ、全体的に情報量が多くなった。
2	18	18	4	片岡精三(編)	(内)改正新刻 帝国大日本里程細図	明治34年(1901)	147×51	鉄道や道路を中心に、各駅や都市の里程(距離)を明記した日本全図である。見ごとに色分けされている。また、著名な湖沼池、山、川の実際の大きさ・高さ・長さが分かる図もある。
	18	19	3		(外)改正新刻 帝国大日本里程細図	明治36年(1903)	146×51	18-18-4と同じ構図の地図である。
	164	7	1		(外)改正新刻京都市郡名所新図	明治27年(1894)	51×74	中央に京都市の絵図(江戸期の京図と類似した構図)が描かれている。周囲には、京都の神社・仏閣などの名所が紹介されており。カラーの地図である。定価20銭だった。
	164	20	1		(外)京都市街名所新図	明治30年(1897)	52×76	164-7-1と同じような京都市の絵図である。地図の周りに描かれた神社・仏閣はNo.7より細く描かれている。定価15銭で販売され、より価格が下がっている。カラーの地図である。
	170	20	1		(外)改正新刻大阪市街区分新図	明治27年(1894)	71×49	中央に大阪市(江戸期の大坂図と類似した構図)が描かれている。周囲には、大阪の関係機関・名所が描かれている。カラーの地図である。定価20銭で販売されていた。
	171	12	1		(内)改正大阪新地図	明治33年(1900)	75×53	大阪市の地図である。田畑は当時の地図記号が使われている。また、森林や山が絵的な記号で描かれている。左下部分に高麗橋からの里程表が明記されている。
3	18	18	4	風月庄左衛門(印刷・発行)	(内)改正新刻 帝国大日本里程細図	明治34年(1901)	147×51	鉄道や道路を中心に、各駅や都市の里程(距離)を明記した日本全図である。見ごとに色分けされている。また、著名な湖沼池、山、川の実際の大きさ・高さ・長さが分かる図もある。
	18	19	3		(外)改正新刻 帝国大日本里程細図	明治36年(1903)	146×51	18-18-4と同じ構図の地図である。
	164	7	1		(外)改正新刻京都市郡名所新図	明治27年(1894)	51×74	中央に京都市の絵図(江戸期の京図と類似した構図)が描かれている。周囲には、京都の神社・仏閣などの名所が紹介されており。カラーの地図である。定価20銭だった。
	164	20	1		(外)京都市街名所新図	明治30年(1897)	52×76	164-7-1と同じような京都市の絵図である。地図の周りに描かれた神社・仏閣はNo.7より細く描かれている。定価15銭で販売され、164-7-1より価格が下がっている。カラーの地図である。
	170	20	1		(外)改正新刻大阪市街区分新図	明治27年(1894)	71×49	中央に大阪市(江戸期の大坂図と類似した構図)が描かれている。周囲には、大阪の関係機関・名所が描かれている。カラーの地図である。定価20銭で販売されていた。
	171	12	1		(内)改正大阪新地図	明治33年(1900)	75×53	大阪市の地図である。田畑は当時の地図記号が使われている。また、森林や山が絵的な記号で描かれている。左下部分に高麗橋からの里程表が明記されている。

4	176	27	1	武内時雄	(内)名古屋市街全図	大正13年(1924)	79 × 54	縮尺1:15,000で南北は名古屋城から名古屋湾、東西は日比津町から矢田町までの範囲を描いた名古屋市の地図である。縦は20分割、横は14分割した線が引かれた図である。
	176	32	1		(内)名古屋市街全図	大正14年(1925)	79 × 54	176-27-1と同じ構図の地図である。No.11と比べ、東区、西区、中央区、南区の入れ分けが明確である。
	177	8	1		(外)都市計画設計最新丁目名古屋地図	昭和3年(1928)	80 × 55	176-27-1と同じ構図の地図である。
	177	13	1		(内)名古屋市街全図	昭和4年(1929)	79 × 55	176-27-1と同じ構図の地図である。
	177	16	1		(外)都市計画設計最新丁目名古屋地図	昭和5年(1930)	80 × 55	176-27-1と同じ構図の地図である。
	177	20	1		(外)都市計画設計最新丁目名古屋地図	昭和8年(1933)	80 × 55	176-27-1と同じ構図の地図である。
	177	22	1		(内)名古屋市街全図	昭和9年(1934)	80 × 55	176-27-1と同じ構図の地図である。
	177	24	1		(内)名古屋市街全図	昭和10年(1935)	79 × 55	176-27-1と同じ構図の地図である。
	178	2	1		(内)名古屋市街全図	昭和11年(1936)	79 × 55	176-27-1と同じ構図の地図である。
	178	13	1		(外)十区制最新丁目名古屋地図	昭和14年(1939)	80 × 55	176-27-1と同じ構図の地図である。
	178	14	1		(外)十区制最新丁目名古屋地図	昭和15年(1940)	79 × 55	176-27-1と同じ構図の地図である。
	178	18	1		(外)十区制最新丁目名古屋地図	昭和16年(1941)	80 × 55	176-27-1と同じ構図の地図である。
	216	39	1		(外)十区制最新丁目名古屋地図	昭和14年(1939)	78 × 55	一誠社(印刷)
	5	176	27		1	伴野辰次郎	(内)名古屋市街全図	大正13年(1924)
175		9	1	(内)名古屋市全図	明治41年(1908)		108 × 78	縮尺1:12000の名古屋市を描いた地図である。当時の地図記号に従って、建物や土地利用まで記載されている。右下に名古屋港を1:40,000の縮尺で描いている。
176		10	1	(内)名古屋市街全図	大正6年(1917)		79 × 54	
6	9	22	2	富田義文	(外)欧亜一目日露清韓明細地図	明治37年(1904)	47 × 62	日本を中心として、ヨーロッパからアメリカ東海岸までを描いた広域図である。右下には、日本、朝鮮半島、満州といった東アジアの地図もある。
	10	13	7		(外)日露清韓明細地図	明治37年(1904)	50 × 68	9-22-2と同じ地図
7	175	23	1	富田喜作	(内)最近名古屋明細地図	明治43年(1910)	79 × 55	縮尺1:16,000の地図である。学校、郡市界などは地図記号を使って表記している。区ごとに色分けがしており、主要な駅や神社などは赤色で着色してある。
	175	24	1		(内)名古屋市全図	明治43年(1910)	79 × 55	175-23-1と同じ構図の地図である。
	175	29	1		(外)名古屋市街明細地図	明治45年(1912)	79 × 54	
	176	2	1		(内)最近名古屋明細地図	大正2年(1913)	80 × 55	175-23-1と同じ構図の地図である。
	176	6	1		(内)最近名古屋明細地図	大正4年(1915)	79 × 55	

8	1	33	10	日下伊兵衛	(内)参宮案内地図	大正8年(1919)	39×54	中心に伊勢神宮内宮から外宮までの道路・鉄道、そして寺院などの名所を記した地図である。内宮・外宮内の拡大図や山田停車場からの距離もある。周りには、名所の写真もある。
	1	33	20		(内)伊勢参宮地図	昭和4年(1929)	18×78	鳥羽から伊勢神宮までを描いた地図である。市街は黄色で着色され、電鉄が赤色で記載されている。右下には大阪、京都から名古屋までの電車の路線図が描かれている。
	1	33	21		(内)宇治山田市街精図	昭和5年(1930)	54×79	
	6	6	17		(外)最新福井市街地図	昭和12年(1937)	54×79	
	24	2	3		(外)最新実測北海道全図附樺太千島図	大正6年(1917)	54×80	縮尺1:800,000の北海道を描いた地図である。また、周りには旭川・札幌・小樽・函館といった主要都市や千島、南樺太まで描かれている。地区ごとに色分けされている。
	24	3	1		(外)最新実測北海道全図附樺太千島図	大正9年(1920)	54×80	上記と同じ構図の地図である。
	171	3	1		(内)大改正大阪実測図	明治30年(1897)	78×55	大阪市と、大阪市に編入された郡部、そして、港の計画を描いた実測図である。周りに、大阪市にある銀行、著名会社、病院などの住所が表で表したり、名所の絵が描かれたりして
	171	10	1		(内)大改正大阪実測図	明治32年(1899)	79×55	上記と同じ構図の地図である。
	172	6	1		(外)実地踏測大阪市街全図	明治44年(1911)	79×55	縮尺1:17,000の大阪市を描いた地図である。周りには、「大阪市ノ富ト力及発達図」「官衛学校銀行所在地表」「神戸市街図」「近畿交通略図」「奈良市街図」「堺市街図」が記載されている。
	172	15	1		(外)実地踏測大阪市街全図	大正8年(1919)	79×55	縮尺1:15,000の大阪市を描いた地図である。区ごとに色分けがなされ、周囲には、「堺市街図」「神戸市街図」「近畿交通略図」「奈良市街図」が記載されている。
	172	19	1		(内)大阪市都市計画図	大正12年(1923)	109×79	縮尺1:15,000の大阪市を描いた地図である。一般図を基本とし、街路新設及び道路の拡張計画を表した都市計画図である。
	173	21	1		(外)最新大大阪全図	昭和18年(1943)	76×54	大阪市を描いた地図である。「出版会承認一〇五七八統図登録第五号(統合版)発行部数100,000最新大大阪全図」と欄外に記載あり。
	173	22	1		(外)最新大大阪全図	昭和18年(1943)	75×54	173-21-1の地図と同じ構図の地図である。ただし、No.44と比べ、各区ごとに色分けがされ、区の名称を太文字でわかりやすく記載されている。
	173	45	1		(外)二万分ノ一第二次大阪都市計画全図	不明	109×79	縮尺1:20,000の大阪市を描いた地図である。街路、運河、下水道、公園、墓地に関する第二次都市計画を表した地図である。
	173	47	1		(内)大阪都市計画一覧図	不明	109×79	縮尺1:20,000の大阪市を描いた地図である。都市計画図であり、住宅、商業、工業地域とともに、甲・乙防火地域まで記載されている。
	177	7	1		(外)名古屋市街全図	昭和3年(1928)	56×40	名古屋市の地図である。区ごとに色分けがされている。左下には、名古屋港方面図が記載されている。経線は1〜10、緯線はいろはに〜かとなっている。
	196	24	1		(内)京阪神付近実測精図	大正2年(1913)	196×91	
	1	48	17		(外)岡山市街全図	大正9年(1920)	54×39	
	98	15	1		(外)朝鮮全図	大正6年(1917)	80×55	
	98	18	1		(外)朝鮮全図	大正12年(1923)	79×55	
1	13	2	(内)尼ヶ崎町全図	大正4年(1915)	54×39			
9	171	3	1	鳥居鍋二郎(発行)	(内)大改正大阪実測図	明治30年(1897)	78×55	大阪市と、大阪市に編入された郡部、そして、港の計画を描いた実測図である。周りに、大阪市にある銀行、著名会社、病院などの住所が表で表したり、名所の絵が描かれたりして
	171	10	1	鳥居鍋二郎(発行)	(内)大改正大阪実測図	明治32年(1899)	79×55	
10	4	13	19	渡邊為治郎	(内)仙台市測量全図	明治34年(1901)	47×64	1:250,000の測量に基づいた仙台市の地図(白黒)である。中心に地図が描かれ、その周りに、瑞鳳殿、仙台停車場、電話交換局などの名所や公共機関の建物の写真が写っている。

12	4	41	5	根元弘(著・発行)	(内)日本商工業別明細図之内NO889津山市	昭和28年(1953)	53 × 76	
	6	11	2		(外)日本商工業別明細図之内福知山市綾部市	昭和27年(1952)	54 × 75	
	6	12	7		(外)日本商工業別明細図之内福山市	昭和26年(1951)	54 × 75	
	6	28	5		(外)日本商工業別明細図之内松山市	昭和26年(1951)	54 × 75	
	6	28	6		(外)日本商工業別明細図之内松山市	昭和32年(1957)	54 × 74	
	6	37	13		(外)日本商工業別明細図之内みやざき	昭和32年(1957)	54 × 74	
	4	24	7		(内)日本商工業別明細図之内NO1075高山	昭和29年(1954)	54 × 74	
13	7	11	2	松信太郎(著・発行)	(内)大正調査番地入横浜市全図	大正2年(1927)	54 × 78	
	7	11	5		(外)大正調査番地入横浜市全図	大正4年(1915)	54 × 79	
	7	11	6		(内)大正調査番地入横浜市全図	大正14年(1925)	55 × 79	
	7	11	7		(内)大正調査番地入横浜市全図	大正4年(1915)	54 × 79	
	7	11	11		(外)大正調査番地入横浜市全図	大正12年(1923)	55 × 79	
	7	11	12		(内)大正調査番地入横浜市全図	大正15年(1926)	55 × 78	
	7	12	8		(外)最新実測地番入大横浜市全図	昭和9年(1934)	55 × 79	
	7	11	5	伊藤島次郎(発行)	(外)大正調査番地入横浜市全図	大正4年(1915)	54 × 79	
	7	11	6		(内)大正調査番地入横浜市全図	大正14年(1925)	55 × 79	
	7	11	7		(内)大正調査番地入横浜市全図	大正4年(1915)	54 × 79	
	7	11	11		(外)大正調査番地入横浜市全図	大正12年(1923)	55 × 79	

14	7	11	2	片山興三吉(発行)	(内)大正調査番地入横浜市全図	大正2年(1927)	54 × 78	
	7	11	5		(外)大正調査番地入横浜市全図	大正4年(1915)	54 × 79	
	7	11	6		(内)大正調査番地入横浜市全図	大正14年(1925)	55 × 79	
	7	11	7		(内)大正調査番地入横浜市全図	大正4年(1915)	54 × 79	
	7	11	11		(外)大正調査番地入横浜市全図	大正12年(1923)	55 × 79	
	7	11	12		(内)大正調査番地入横浜市全図	大正15年(1926)	55 × 78	
	7	12	8		(外)最新実測地番入大横浜市全図	昭和9年(1934)	55 × 79	
15	7	11	2	金井直三(印刷・発行)	(内)大正調査番地入横浜市全図	大正2年(1927)	54 × 78	
	7	11	6		(内)大正調査番地入横浜市全図	大正14年(1925)	55 × 79	
	7	11	12		(内)大正調査番地入横浜市全図	大正15年(1926)	55 × 78	
	7	12	8		(外)最新実測地番入大横浜市全図	昭和9年(1934)	55 × 79	
16	141	7	1	大澤大三郎	(外)改正明細区分東京新図	明治17年(1884)	54 × 45	
17	141	7	1	藤井利八(出版)	(外)改正明細区分東京新図	明治17年(1884)	54 × 45	